

露

〈Rojuku〉

宿

第2号

## 露宿 目次

|                  |             |    |
|------------------|-------------|----|
| 表紙写真             | 野口 京子       |    |
| 路上の目線            | 富士森 和行      | 2  |
| 黙示               | 岩倉 照義       | 3  |
| 手紙               | 角本 輝幸       | 4  |
| 暑中見舞い (俳句・短歌・写真) | 浅草 五郎       | 5  |
| 俳句               | 遊心          | 7  |
| 俳句・短歌            | 平塚 悔古       |    |
| 祭                | 新宿の孤老爺      |    |
| 俳句・詩             | 小一 (KOICHI) | 8  |
| たそがれの慕情          | 新宿の孤老爺      | 9  |
| 人生の始発駅           | 田代 猛        | 10 |
| 土谷太の世界           | 土谷 太        | 11 |
| 詩4編 絵1葉          |             |    |
| 病気と私の自立          | T・A         | 13 |
| 野宿者の一人として        | 宗春          | 14 |
| 陽だまり 13          | 秋戸 空        | 15 |
| 男として女として         | 水すまし        | 16 |
| 無題               | 宿青屋         | 17 |
| 個人的パトロール記録       | 調査コマンダー     | 20 |
| ききがき             | 石山 泰人       | 21 |
| 私・僕らはみんな生きている    | 恩田 美代子      | 23 |
| 露宿ペン倶楽部へのお誘い     |             |    |
| 東京路上ふらり散歩        | 写真 岡田知子     | 24 |
|                  | 文 笠井和明      |    |
| 露宿の本棚            | 殿村 よしお      | 31 |
| 「かんじんさんになろう」     |             |    |
| 映画案内             | 恩田 美代子      | 33 |
| 「マイ・ネーム・イズ・ジョー」  |             |    |
| はり師いがまるの肝心かなめ    | はり師いがまる     | 34 |
| 文中さし絵            | Gさん         |    |
| 文中写真             | 岡田 知子       |    |



## 路上の目線

富士森 和行

そばへ

日照雨ふる夕べゆく町にホームレスの社会復帰のフォーラムが待つ

遠く来しダム建設の飯場ありひと夜山中に遁れしも懐かし

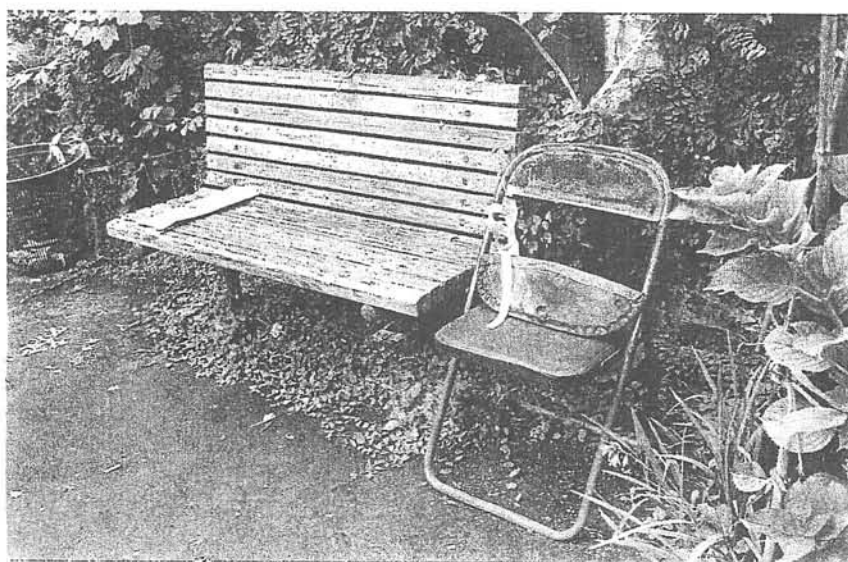
不況のもと直悪質な契約などあらむかと思ふ梅雨の路上に

われ老いて初めて踏みし地は貧し西成も笹島も労働者らの生きる

昏れ残る川いづこより蝙蝠の来たりて翔べる梅雨の晴れ間を

老いの生活おもむろに保護費減りゆくに甘んじおりぬ浪費さみしも

且つて共に雇われし飯場の仲間路上に臥して長く哀しき



## 黙示

岩倉 照義

愛し方は 誰に訊けばいいんだ  
私の内側で 蠢く哀しみは  
闇の中でも 鮮やかに現れる  
突然 それは訪れるのではなく  
避け難い遺伝子のように  
確かな道程を辿って 顔を出す  
だが 何時もそいつに会うと  
始めて眺める 遺跡に出会ったように  
愕然として その場に佇む  
昼夜を問わず 叫びたくなる  
孤独を 私は望んだのか  
愛し方は 誰に訊けばいいんだ  
メデイウスの輪の上でも 狂気と  
正気の境界は 存在するのか  
不透明な器の内側に  
勝者と敗者が選別され  
敗者の腕の中で 幼児の泣き声が  
眠らない街の峡谷に流れる



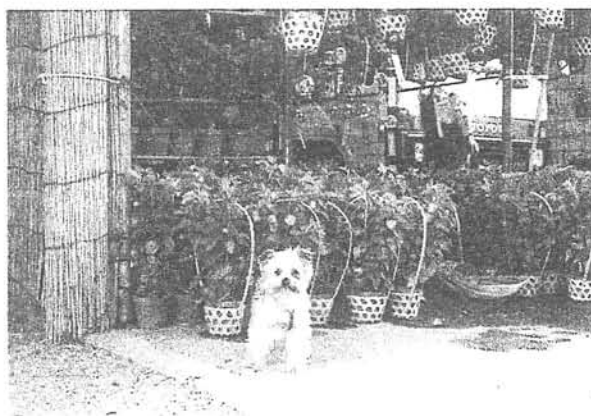




## 暑中お見舞い申しあげます

浅草五郎

野宿らは 微笑み交わす 夏まつり  
銭なしの 野宿ら語らう 熱帯夜  
熱帯夜 アオカン土工 子进行  
夏まつり 東北訛りの 日雇夫  
帰らざる 友にワンカップ 盆の月  
野良犬も 野宿に慕う 焚火の輪  
踊りの輪 地下足袋姿の 友と居て  
車椅子 混じえて少女 踊りの輪  
都庁真下 野宿ら訴え 夏まつり  
野宿らは 心が触れ合う 大焚火



陽のささぬ 路傍の隅に ドクダミの  
夏白き花は ふれ合ういて咲く

眼に映る 野バラどれも 美しく  
弱き心を 励ます如く

生きている ことさえ忘れ 眠れべし  
偶然に来む 未来があれば

土方でも 働くことの 喜びに  
満ちたりし姿 何で笑える

暮れかかる 虚空に向いて 思いきり  
少年の如くに 奇声発する





## 遊心

母迎へ 年に一度の 盃蘭盆会  
鯛や 夕餉をつげし 子等帰る  
鳳仙花 風雨にうたれ はじけ飛び

## 平塚悔古

生きて行く修羅場の路の深夜かな  
耐えている心の支え 青天井  
段ボール重ね合わせて夏の床  
恥も無く食も無くして野宿かな  
仲間の姿あちこちに足どり重く暮れて行く  
今日も又陽影さがして歩み行く

## 祭

新宿の孤老爺

人は、過去より、西の国も東の国でも  
話す言葉は違っていても  
海の民が、山の民が、神に祈り  
よろこびも哀しみも焼き尽くすほどに  
歌い、踊った  
それは、魂の叫びだ!!  
ここ、中央公園でも六重の夏祭りがやってきた  
西から流れ、東から流れて来た人も  
ここ東京の空の下集いて  
みんなの手作りの夏祭りだ  
昨日のことも、今日の憂も忘れて  
ひとときの魂のときめきに  
さあ!! 歌え、踊れ  
明日?  
朝もまた陽は東の空に昇るだろう

# 小一 (KOICHI)

土佐犬だ ワンと言わずに ノオと言え  
流れ星 今夜も星が 消えて行く  
腹立てば 我が身落ち行く じごく坂  
輝きは 鍛え抜かれて 増して行く  
家なくも 星空見上げ 朝を待つ  
東京都 庁舎満杯い チョーのむれ  
ひまわりは 暑さしらずに 咲いている

夏の花、ひまわり。俺は此の花が一番好きだ。  
暑さにも負けずに、すくすくとのびてゆく。  
その強さ、たくましさ、又まわりをかこむ葉の美しさ。  
ただただ太陽に向かって進む花。  
此を見て、花の美しさとは、  
別々にはなれず一本の真に連なって、初めてきれいな花と見た。  
花の命はみじかいけれど、人の命は永いもの。  
花でさえだんけつし、たすけあいながらのびて居る。  
まして、俺は人間だ。  
花に負けてたまるものか。  
此からは、仲間皆と手を取り合って、生きて行く。  
これがしあわせと云うものなのかもしれない。



# たそがれの慕情

新宿の孤老爺

東京の下町辺り、町なみにはやくも灯がともる。人のあたたかき、やさしさが見える。男は、タバコに火をつけた。その横顔に人生の翳りと自嘲の微笑が浮かんた。あの灯の内には、今どき、女達は夕餉の支度に忙しく、子供達の笑い声がする。男達は、ねぐらに帰る鳥のように家路を急ぐ。一家団欒。そんな光景を思いながら。

小高い台地から見ている男。「オレにもあの風景の中の生活があったんだ」  
どこで、どう間違ったのか？ 今のオレには別世界のことなのだ。

子供の頃が想い出された。疎開先の田舎道を家族皆であるいた。峠を越える頂きに立った時、見た!! それは、大きな大きな夕陽が、今、西の海に沈まんとする姿を茜色に映える海、紅にもえる雲間から、幾条となく照射される驍光の剣。

それは正に、光背か、光輪か。少年は叫んだ。

「おばあちゃん、あそこに、神様だ!!」

あの感動にうちふるえた無垢な少年とこの男と同一とは。半世紀の時の流れに、男は今。夢に破れ、世をさすらい、流れ流れて東京の空の下、つかれた横顔を見せて、男が一人、夕暮れを眺めている。

夕暮れはよい時 かぎりなく やさしい時

夕暮れはよい時 かぎりなく 淋しい時

夕暮れはよい時 かぎりなく 哀しい時

追附 少年時の一番好きな歌 ドイツ人 ブッセの詩 訳 上田 敏

山の彼方の空遠く 噫、われひとと尋ねゆきて、 山の彼方になお遠く  
「幸」住むと人のいふ 涙さしぐみかへりきぬ 「幸」住むと人のいふ

## 人生の始発駅

田代  
猛

人生の終着駅は人生の始発駅でもある。現在置かれている自分の姿を直視するとき、自分自身に、怒りと、複雑な何物かが心に去来する。人間が働く意志と能力を抱き、必死に必死に厳しい社会の現実の中で生きようとするのに何故それを遮るのだらうか。或る人達はそれを人生の敗残者（ホームレス）と呼ぶ近代社会の中で種々論議されてきた（ホームレス）の形態が今日の識者達に現実理解されているのだ

らうか。前都知事の青島氏の言葉を借りれば（彼等是一種の人間的な欠落者であり、非生産的社会の異常者）と公言されている。政治の貧困、行政の怠慢、突きつめれば、そのもにも、そこに直面する、例えば日債銀（一兆七千億）・長銀（四兆一億）の粉飾決算、国民の血と汗の税金が何兆億円とつぎこまれ一部上層部大蔵行政の失政により湯水の如く使はれ、結果は紙くづの如く消えてしまった現実の姿、その中の何十分の一でも、底辺で必死必死に生きようとする人々にと考えるのは、私一人の思ひだらうか。小さな、ちつぽけな、人間の空しい叫びなのか。冒頭に記したように人生の終着駅は、その人の人生の始発駅でもある。友人

よ、仲間よ、今日からが、今からが、人生の始発駅に立ったのだ。人生の始発駅のベルが今日から、今から、鳴りわたるのだ。（新宿公園、戸山公園、宮下公園、上野公園、等々）のダンボールが、又、簡易旅館（下ヤ）ベツトが、人生の始発列車のシートなのだ。仲間よ、友人よ、厳しい重圧を仲間の協力と自らの生きぬく己の意志で跳ねかえせ。そして、明日之の希望の日にならんことを切に、切に、心から祈り、この拙い文が、友人と仲間と明日之の生きる希望の一つの心の糧の何文の一でもなればと思ひ記し、捧げたい。暗い暗いトンネルを過ぎ去ると必ずや、明るい太陽の光が、きつと、きつと、照り輝くのだ。さあ、人生の始発駅のベルが高らかに鳴り響いているのだ。頑張ろう。頑張るのだ。

棄てられし民、棄民になるな。



## ウォーター

ビルの中の雑とうの中、人かげにまぎれ  
自分の人生をうらむ……きれいな物に  
身をまとった人達を見た……汚れてし  
まった自分……しかし……まで……水  
を飲みほす……のどから腹に水が体全体に染み込む……水が体全体にい  
き通り……汚れたはずの自分が体全体に聖水がはいった様に汚れた自分が生  
き返った……服は汚れても身はまだ大丈夫だ……そうまだ自分は敗ぼ  
く者ではない……水が全てをきよめてくれた……そうまだ戦いぬかな  
ければ……自分自身に勝つ為に……

(銀座阪急ビル前にて)

## 土谷太の 世界

詩 4 編  
絵 1 葉

## 理解

みんな心をかばいあう様  
で……背き合う様で……  
でも……それを理解し……  
物事を一つ一つをたしか  
め……そうやはり最後はそ  
れを乗り越えるのは、自分  
自身なんだ……

(ベンチにて)

## 路上のあかし

みんな路上に寝ころんで星を見た……星  
は雲にかくれようとした……もうだめだ  
と……みんな路上で寝ころんでそう思えて  
きた時……一つの星がとつ然かがやき始  
めた。いや……待て！一人がさけんだ……  
そうみんなまだ終わってはいない……一つ  
の星が明日への希望を見いだしている……  
路上で寝ころんだまま、一つかがやく星を見  
た……その星も朝日の中で消え……一つ  
の大きな陽が路上に寝ころぶみんなを照らし  
た……そして路上で寝ころんだはずのみんな  
が一人一人立ちあがり……一つ陽にみ  
んな走り出した……そう一つの星とその陽  
はみんなの希望……そうそれがみんなの  
路上のあかし……みんな明日に向かい希望  
と夢と愛を、足に力をこめ陽に向かって走り  
出した……それがみんなの路上のあかし……

(渋谷の児童福祉会館の寝床)

FIRE

真夏の太陽のロードを走り抜けようぜ。俺達はこの世で一番ワイルドな集まりさ！ さあ見ろよ！ 俺達は真実を知っている！ 俺達は人のみにくさを知っている！ 俺達はもののありがたさを知っている！ 俺達は自然のありがたさを知っている！ 俺達は正義を知っている！

そして俺達は愛を知っている！ さあ見ろよ！ ロードを走る俺達を！ 彼女達が、俺達をあついひとみで見つめてるぜ！ 一口ウォーター飲みほして、俺達は走りさけび続けるのさ！ この世で一番ワイルドな集まり！ もう世界は俺達を見なきゃ損するぜ！ そう俺達は、この世で一番ワイルドで、いつわりと戦う正義の心をもったワイルドな集まりさ！ こんな俺達を、彼女達をだきしめておくれ。

(渋谷デモ行進終了後)

路上の女性



# 病氣と私の自立

T・A

長い間病氣もしないで、私も会社人間でした。始めて病氣をしたのは、私が厄年の42才の時、駅で倒れ救急車で病院に運ばれ（S57・7・28）脳血管障害で入院し、それで会社を2ヶ月位休み、それも月日が過ぎると病氣の事も忘れ、又会社人間で働きました。1年が来る時、中目黒駅（S58・7・30）で脳梗塞で倒れ、この時は、医者から長くない事をいわれ、私の友人より、小さい病院より大学病院が良いとの事で慶応大学病院の教授を紹介して戴き、大学病院に転移し、私の命を救って戴きました。それから身体には充分きをつけていましたが、44才を過ぎると今迄とはちがひ、体力がなくなり、会社では夜遅く迄酒の席が多くなり、S61年、頭に細菌が入る病氣（ヘルプス）で又入院致しました。頭部の痛みが約7年つづき、その期間中、いろんな検査中、慣性関節リウマチが発見されて、H元年10月、11年4月迄に両手の指、手首、肘と右足の膝に人工骨を入れる手術をし、今にいたっています。

その間に平成9年3月で会社が倒産し、9月中旬より野宿生活に入り、11月25日に東京都暫定自立支援センターの施設に入る事ができ、住民票を移動し、すぐ就職活動し、リウマチという病氣の為に面接で4回もおとされ、就職活動を12月でや

め、自立をする為には1度認定を受けてみてはといわれ、平成10年7月8日に東京都障害者センターで慢性関節リウマチの認定を受け、東京都より2月4日に2級と判定があり、私のこれからの生活基準を作るには厚生障害年金の手続きを2月16日にして、7月23日に社会保険庁より2級の判定があり、生活して行くことが出来、アパートを借りる資金と生活する資金を生活保険会社の貸付制度より資金を借り、3月22日にアパート生活に入った訳です。今は障害年金で生活をしています。月に4、5日アルバイトをしています。路上生活者も、一日も早く自立される事を心より願っています。



## 野宿者の一人として

宗春

私は仕事が無く、早三ヶ月、野宿するようになり、この都会の真ん中で多くの野宿労働者を知りました。不況にあえいでいる人達があんなにも多く居ることに対して、これからの日本の状態はどのようなようになってゆか不安です。私も仕事をしたい。動ける限り前の様に働き度く池袋の職業安定所に行きましたが、この都内に住所が無いためけんもほろろにおい返されることとなりましたが、残念でした。

今現在は福祉ボランティアで仲間と共に動いています。この夏、新宿夏祭りに於いて、前の職業で理容業を生かして、散髪班という名目で散髪を行うことになり、池袋では多くの仲間を散髪しています。刈った後帰っていく仲間の顔が少しでも明るく見えると、私はあ々刈ってやって良かったと思う。多くの仲間がさっぱりとして清潔な姿になり、夏の暑さにも負けず、又働ける人は働く事を望む毎日です。野宿者の一人として望んで居ります。

### 季刊 Shelter-less 路上から現代社会を問う

1999autumn

- 目次
- ・講演「野宿者問題をめぐって一行政・支援・我々」 宇都宮大学 田巻松雄
  - ・特集 路上・寄せ場の医療問題 新宿医療班・山友会・寿医療班  
横須賀夜回りの会・笹島診療所  
釜ヶ崎医療連絡会  
新宿医療班医療従事者による座談会
  - ・リレーエッセイ「地域に広がる見えない恐怖」 毎日新聞 磯崎由美
  - ・寄る辺なき街角から一京都編「もうひとつの自立を求めて」 本田次男
  - ・野宿者情報クリップ

定価600円＋税 A5版 108頁 写真提供：今号は橋本弘道氏

発行：野宿者・人権資料センター

発売：現代企画室

tel & fax 03(3226)6845

tel 03(3293)9539 fax 03(3293)2735

E-mail YHY07064@nifty.ne.jp

E-mail gendai@jca.apc.org

<http://member.nifty.ne.jp/nojuku/>

- 全国有名書店でお求めになれます。または、資料センターに直接お申し込み下さい。  
年間購読なさる場合は、3000円で、毎号郵送致します。



# 陽だまり

13

秋戸空

凍った陽だまり  
があつた季節  
視ている前から  
急げきに立ち  
去っていった冬  
陽陰が  
陽ざしに  
照らされつつけ  
熱い日が始まった  
皆陽陰に  
逃げこむ  
これも人情  
冬の陽だまりと  
初夏の陽陰  
逆の形象で  
現れる今、  
これも人情

冬の陽だまり  
対する  
陽陰への確執  
はないのだけれど  
なにしろ、どこへ  
行っても、陽ざしに  
照らされていて  
取り合う事すら  
必要もない  
だけでも  
皆、自分の場が  
決まってい  
割こむ事もない  
これは一つの  
仁義  
初夏の陽だまりの  
形象だった

# 求む米毛布

季節はもう秋、腹もへるし毛布も欲しい。腹がへっては戦も出来ぬ。睡眠とれな  
き命は守れぬ。役所は本当に頼りにならぬ。米さえあれば皆さんで飯を作る。毛  
布さえあれば皆さんで配って歩く。しかし、俺らにや物が無い。他のものならなん  
とかなるが、米と毛布は落ちてない。  
新宿連絡会では新宿・池袋の野宿者への支援物資を求めています。米、毛布、衣  
類など、ご家庭で不要となりました物資がありましたら、下記住所へお送り下さい。  
皆で大事に大事に使わせて頂きます。

「路上からの提言」好評発売中！

10・15 都庁デモへ！  
正午 新宿柏木公園集合  
10・16 反失業東京大集会へ！  
午後1時 文京区民センター

## 新宿連絡会

東京新宿区東大塚 1-25-11 山崎労働者福祉会館裏付  
☎ 090-3818-3450 FAX 03-3378-8761  
郵便振替口座 00170-1-723682

## 男として女として

水すまし

スイカ、かき氷のおいしい夏がやってきた。

ノストラダムスの云う7月14日もなんとなく過ぎ、ホッとしていると共に、いくらか気抜けもしている。来なかったのは、そこに神の采配がおきたか、人々の心(想念)が善くなったせいか、それはわからないが……。でも、まだ油断はできない。

人の為、社会の為に少しでも善きことをしておくべきである。

今、地球は「恐怖の大王」ならぬ酸性雨・霧が降り注いでいる。そして、ダイオキシン測定のニュースはよく流れる。母親の母乳の中にもふくまれている。工場からの排液は海川に流れ、魚介類を汚染している。貝に雨性をそなえているのが出ている事を知っているだろうか。そして、男性の精子であるが40才の男性のそれよりも18才の男性の精子の方が弱々しく、数も少ないのである。この現象、母親が汚染されている魚、農薬のかかっている野菜などをよく食べ、それが母乳を通して児の体内に入ってしまった。その結果、この様になったのではないだろうか。

食器洗いの中性洗剤に「界面活性剤」が入っていて、これがすごい悪玉だそうである。何年か前、台所からの排液が河川に流れ、泡だち、魚が多く死んだ事がある(今でもあるか)その時に、私は「いまに何か大変な事が起きる」と思っていた。その大変な事とは、雨性を具有する貝、魚の内臓の異常、若人の精子の減少という形で返ってきた。魚貝は小さいから早く起こったのであろうが、人間に起こらないと云う保障はない。現に若人の精子が減少している。

永遠に男であり、女である為に、私達は何かしなければならない。企業体には毒気を消除してから海に捨ててもらふ事、私達は食器を洗うのに(中性洗剤)を使わずに固形石ケンを使うようにする事。よく洗えばにおいは残らないし、油や汚れの濃いフライパンや、お皿は、よくふきとってから(新聞紙で)洗い流すと水は汚れないで済む。そして、海や河の水も汚れないで済む。

今ではもうおそすぎるのであるが、何もしないよりは良い。皆で実行しようではないか。美しい地球・人類を根だやしにしない為に。地球に人の影が見えなくなるなんて、さみしいではないか。

今、環境映画祭なるものを毎年やっている。目玉は「環境ホルモン」。例の貝の映画で一位をとった。二位がインドの「カースト制度」を扱ったもの。三位オーストラリアである。

今世界では内乱がある国もあり、戦争の後遺症で困っている人もありで、日本の様な平和な国は他にないのではないか。その日本に生れさせられている事に感謝しなければと思う。そして、科学者・薬品を扱う人は、よくよく検査してから使ってもらいたいと思う。と云う事は、薬品には使ってみなければ判らないと云うコワサがあるのである。ダイオキシンでは、焼却場の近くの70才の女性の胸がはってきたり、同世代の男性の胸からお乳が出たりと云う事を聞いている。

しばらく違っていますが、星さんもダイオキシンの何かをやっているそう。善い人で、よくやる星さん、ガンバッテ下さい。星の王子様。

青い屋根の  
友と我れ  
皆そらそ  
炊出しの歌  
雨親眠る  
許してと  
今日此處に

父の心  
年月道  
かえり  
夢の我  
静かに  
食べる  
明日の  
あても  
もあ  
今夜も  
眠るの  
か

若き日  
妻に出  
赤子背  
泣き  
年月道  
野宿の  
あゆ

誰がため  
我が友  
青い  
仲の  
今月  
時折  
あは  
月あ

時流は  
愛の  
家路が  
遠からぬ  
（りき）  
誰が待つ  
先

これを読まずに路上を語るな！

連絡会のボスが獄中で綴った真迫のドキュメントついに発刊！

# 新宿ホームレス奮戦記

**立ち退けど消え去らず**

笠井 和明 著

46版

372頁

定価2200円＋消費税

全国の有名書店にて好評発売中！

新宿連絡会でも宅配販売をしています。☎FAX03-3378-8761

現代企画室

101 東京都千代田区猿樂町2-2-5 新興ビル302  
電話03-3293-9539 FAX03-3293-2735



# 調査コマンダーの 個人的パトロール記録 2

渋谷区

東京体育館 30 3/13 深夜カウチ地点

東武東上線 上4

北参道 下5

4駅 渋谷(駅) 渋谷(駅)

明治通り 天保橋

代々木公園

代々木公園

道玄坂通り 新大塚ビルディング 2号館 5号館

JR東武有馬町ガード下

浅草町 古代倉跡公園

東3 サウザンビル

明治通り 神宮前 6 Star Store Tomorrow Land 渋谷区

1日 日本グローバル証券 渋谷区

代々木1 (初台地区) 旧玉川上水沿道 緑道公園

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

東京体育館 30 3/13 深夜カウチ地点

東武東上線 上4

北参道 下5

4駅 渋谷(駅) 渋谷(駅)

明治通り 天保橋

代々木公園

代々木公園

道玄坂通り 新大塚ビルディング 2号館 5号館

JR東武有馬町ガード下

浅草町 古代倉跡公園

東3 サウザンビル

明治通り 神宮前 6 Star Store Tomorrow Land 渋谷区

1日 日本グローバル証券 渋谷区

代々木1 (初台地区) 旧玉川上水沿道 緑道公園

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

初台1 (初台地区)

文京区

音羽通り 関口3

音羽2

音羽1

音羽0

音羽-1

音羽-2

音羽-3

音羽-4

音羽-5

音羽-6

音羽-7

音羽-8

音羽-9

音羽-10

音羽-11

音羽-12

音羽-13

音羽-14

音羽-15

音羽-16

音羽-17

音羽-18

音羽-19

音羽-20

音羽-21

音羽-22

音羽-23

音羽-24

音羽-25

音羽-26

音羽-27

音羽-28

音羽-29

音羽-30

音羽-31

音羽-32

音羽-33

音羽-34

音羽-35

音羽-36

音羽-37

音羽-38

音羽通り 関口3

音羽2

音羽1

音羽0

音羽-1

音羽-2

音羽-3

音羽-4

音羽-5

音羽-6

音羽-7

音羽-8

音羽-9

音羽-10

音羽-11

音羽-12

音羽-13

音羽-14

音羽-15

音羽-16

音羽-17

音羽-18

音羽-19

音羽-20

音羽-21

音羽-22

音羽-23

音羽-24

音羽-25

音羽-26

音羽-27

音羽-28

音羽-29

音羽-30

音羽-31

音羽-32

音羽-33

音羽-34

音羽-35

音羽-36

音羽-37

音羽-38

音羽通り 関口3

音羽2

音羽1

音羽0

音羽-1

音羽-2

音羽-3

音羽-4

音羽-5

音羽-6

音羽-7

音羽-8

音羽-9

音羽-10

音羽-11

音羽-12

音羽-13

音羽-14

音羽-15

音羽-16

音羽-17

音羽-18

音羽-19

音羽-20

音羽-21

音羽-22

音羽-23

音羽-24

音羽-25

音羽-26

音羽-27

音羽-28

音羽-29

音羽-30

音羽-31

音羽-32

音羽-33

音羽-34

音羽-35

音羽-36

音羽-37

音羽-38

音羽通り 関口3

音羽2

音羽1

音羽0

音羽-1

音羽-2

音羽-3

音羽-4

音羽-5

音羽-6

音羽-7

音羽-8

音羽-9

音羽-10

音羽-11

音羽-12

音羽-13

音羽-14

音羽-15

音羽-16

音羽-17

音羽-18

音羽-19

音羽-20

音羽-21

音羽-22

音羽-23

音羽-24

音羽-25

音羽-26

音羽-27

音羽-28

音羽-29

音羽-30

音羽-31

音羽-32

音羽-33

音羽-34

音羽-35

音羽-36

音羽-37

音羽-38

音羽通り 関口3

音羽2

音羽1

音羽0

音羽-1

音羽-2

音羽-3

音羽-4

音羽-5

音羽-6

音羽-7

音羽-8

音羽-9

音羽-10

音羽-11

音羽-12

音羽-13

音羽-14

音羽-15

音羽-16

音羽-17

音羽-18

音羽-19

音羽-20

音羽-21

音羽-22

音羽-23

## ききがき

### 集団就職、ギター、 そして今のこと・・・

Bさんのお話

私は一九四三年（昭和一八年）秋田に生まれました。一五才のとき集団就職で蒸気機関車に乗って東京に来ました。昼に出て翌朝に着いたと思います。友人たちと一緒に乗りましたが、仕事のことを考えると緊張してよく眠れませんでした。

上野に着くと迎えの人が来ていて、そのときの光景はいまだによく覚えています。

仕事は、父が探してくれた綿の打ち直しで、住み込みなので部屋と食事の心配はいりません。とても、埃っぽい職場でした。

五人きょうだいの長男だったので、いつかは秋田に帰るつもりでいました。一九才のとき、どうしようもなく家が恋しくなって店を飛び出し、貨物トラックなどを乗り継ぎながら四日かかって家に戻りました。

もう東京に行くつもりはなかった。でも親には「妹を中学にあげなきゃねえ」と言われました。貧しい私の家では、私を食わせるだけの余裕がなかったのです。一週間ほど家にいたあと、やむなく東京へ行き、同じ職場の人の紹介で別の店で働き始めました。

同じ店にいと飽きてしまうので何度か店を変えましたが、仕事は同じ綿打ち屋でした。この頃ギターを買って、よく部屋で弾いていました。

二三才のとき川崎のNTTの下請け工事会社で働き始めました。ここも住み込みです。出張の多い職場で、福岡や広島にも行きました。出張では皆と同じ部屋で寝起きをします。私はそこで酒を飲むようになりました。みんなが飲むから自分だけ飲まないわけにはいかなかったのです。

川崎で働き始めて三年たった頃、父が危篤との連絡を受けました。急いで秋田に戻りましたが、帰ったときには父は既に亡くなっていました。脳卒中です。

私の母は、私を産んでしばらくして亡くなり、当時四才の姉は養子に出され、私だけが父のもとに残りました。その後、父は再婚しましたが、私にとって、真の本当の身内は父だけでした。

初七日まで家にいて、東京へ戻りましたが、川崎には行かず、小田原の手配師を通じて日雇いの仕事を始めるようになりました。酒を飲むようになって、少しづつギターから遠ざかっていたのですが、この後ギターを持つことはなくなりました。

しばらくして横浜から建築・資材関係の仕事に行くようになりました。当時、弟妹が結婚したのですが、日雇いをしていたので帰りづらく、結局行きませんでし

た。

三十代からは高田馬場で仕事を探すようになりました。今もここで探しています。

最近はず前中に新宿区役所の廊下で仮眠をとり、午後から地下街などをぶらぶら歩き、夜中は歌舞伎町をまわってハンバーガー用のパンを拾って食べています。早目に行けばハンバーガーが拾えるのですが、じゃまくさいので（争い事などもあるので）行きません。タバコの吸いながらパンにかかっていることがよくありますが、それでも食べています。温つけたフライドポテトも一緒に食べます。フライドポテトはポケットにも入れておき、歩きながら少しづつ食べます。

このハンバーガーのパンは甘く、これに牛乳があれば最高です。

石山 泰人





# 東京

## 第2巻

路上

ふらり

散歩

写真・岡田知子  
文・笠井和明

### 「なんでもない江東区編」

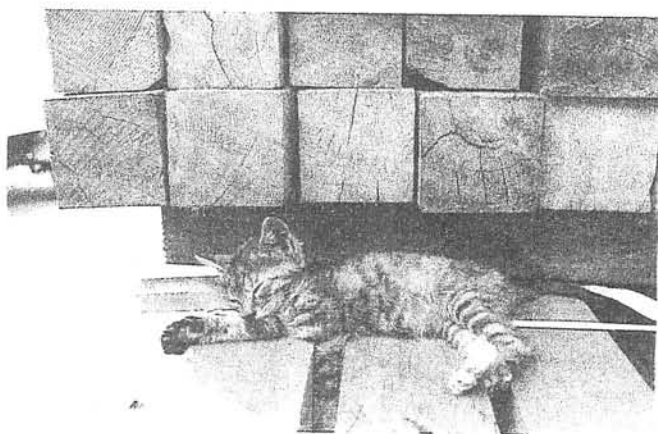
野宿すら出来ない都市の姿はまっとうな都市の姿ではない。貧困すら認めない近未来都市がとてつもなくグロテスクなよう、そこにあるべき人、生活の姿を覆い隠すことが決して美でもなんでもない。

東京は都市生活者の街である。そこに働き、そこで遊び、そこで生活する日々の暮らしが凝縮した街である。もちろん、そこには大金持ちもいる、そして、家すら持てない人々の群もいる。東京は様々な階層が並存していける街であるべきであり、特定の階層が支配する街であってはいけないのである。

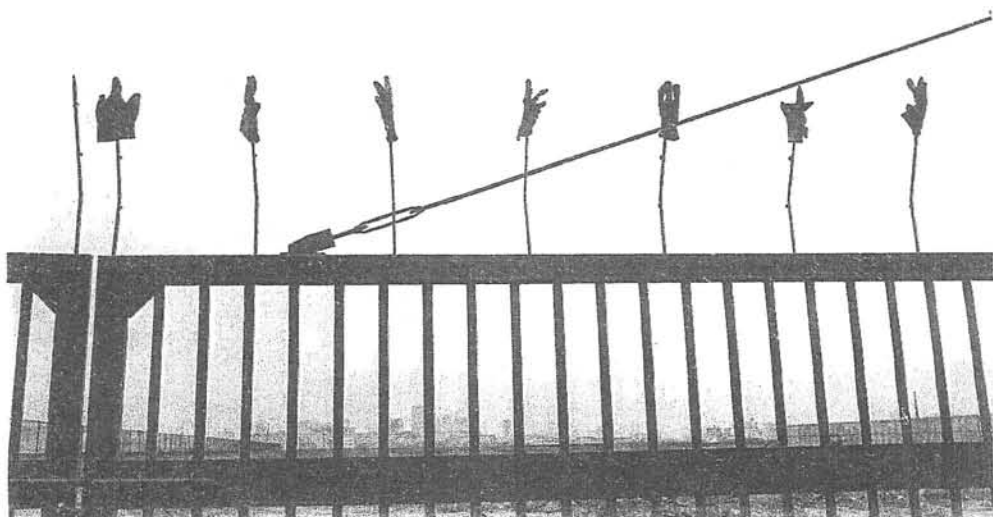
僕らが古い町並みや人々の生活を発見するため東京の街をぶらぶらするのは、実はそんな批判観点が原動力となっている。新宿中央公園のテントから都庁を始めとする西口の超高層ビル街を見上げる対称を人々は好むが、そんな光景は東京には幾らでも存在している。



るこの湾岸もさぞ家族連れで賑わっているだろうと思ひや、釣り人がちらりほらりといるぐらいで、みわたす限り何も、ない。木材屋の猫達が日溜の中たわむれ、安眠をむさぼり、そんなほのぼのとした時間がここにはひたすら漂っていた。雑草が伸び、ガラクタや自転車などが散乱している歩道や空き地、橋の下の雨避けには野宿のおっちゃんがいちたであろうと思われる毛布や生活物資の抜け殻が雑然と並び、工場の排水口からはチロチロと水が運河に流れ落ちる。整地作業を行なう空き地の鉄門の上には使い古しの皮の軍手がカサカサになりながら空を指さしている。どこことなく殺風景

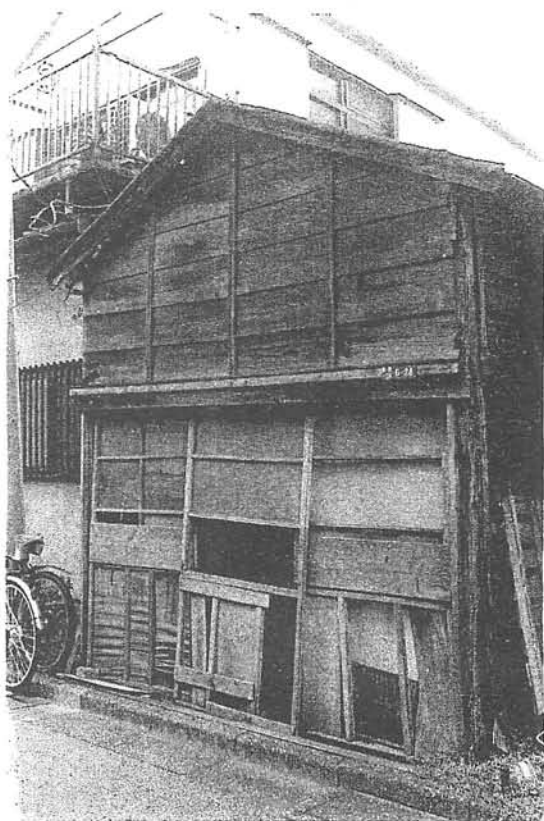
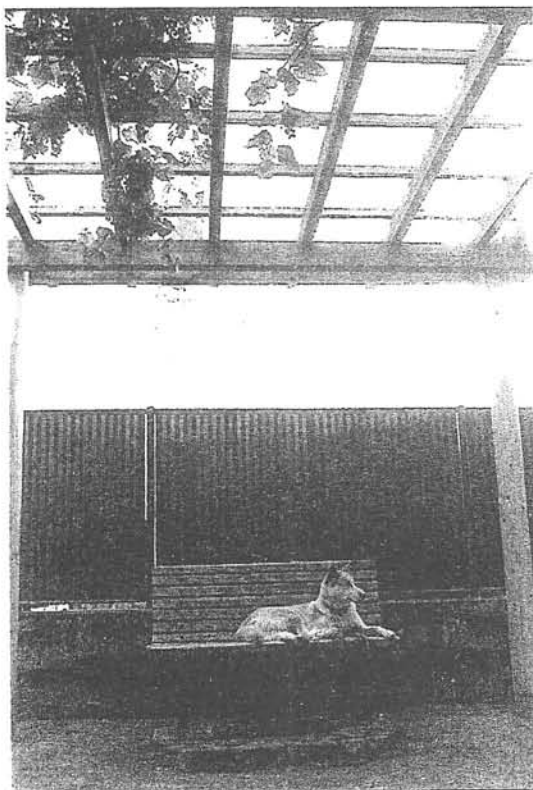


青海にあるパレットタウンの大観覧車が運河の向こうに見える場所にかつての埋め立て地の代表である夢の島を擁する新木場の街がある。ここはその名の通り、貯木場や木材工場が並ぶ木材の香り漂う静かな街である。開発の手が伸び、いつのまにやら都心の観光スポットになった臨海副都心部の空虚な喧騒とは対称的に、木材産業の街はただひたすら働き人の手によって守られて来た。「海の日」ともあって海が見渡され



で、無骨で、雑然としている懐かしげな風景は、産業地帯の原形を見るようだ。それは、ひたすら頑固に、コツコツ、黙々と日々の仕事を繰り返す。町並みもそれに合わせた町並みとなり、美観など細かいことは気にせず、ひたすら機能的な町並みとなる。

西に臨海副都心、東に東京デイズニールランドと大きな観光地に挟まれたこの地帯は、再開発という言葉とは無縁に、しかし、それでもさびれる事もなく、独自の都市空間を地道に作りあげている。そんなに古くもなく、そんなに新しくもない、良い意味でどこにでもありそうな中途半端な都市空間が僕らに安らぎを与えてくれるという事は、それだけ魅力のない都市に東京がなり下がってしまった証拠のような気もした。

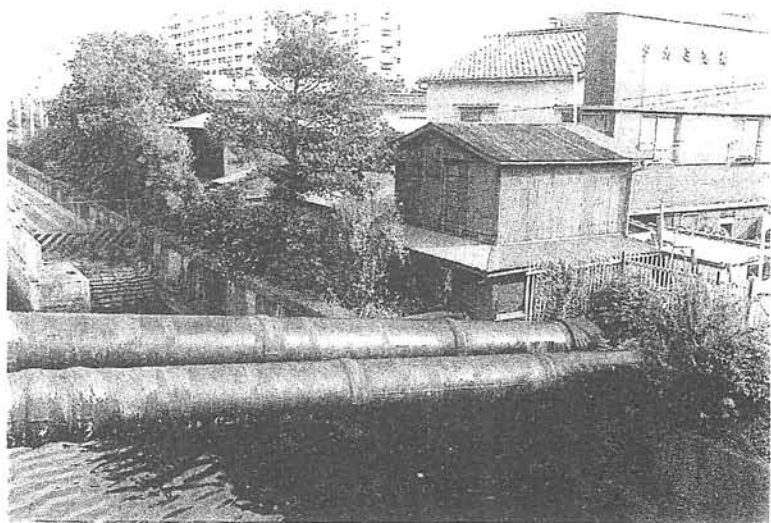


新木場から湾岸沿いの道を歩き、辰己の森近辺で休息を取りながら、東雲、そして豊州に入る。江東区の沿岸よりの地域は、戦後から高度経済成長期までの時空にタイムスリップしたような空間があちこちにある。全体的に開発の手は伸びているのだろうが、開発という化け物は古くからある町並みを一変させることは出来ず、その土地、土地の歴史Ⅱ人々の生活に呪縛される。この攻防こそが実に楽しく、そして、頼もしい。東雲の大きな団地の脇に戦後のバラック小屋をおもせざるかしいだ木造住宅がポツンと建っていたり、遊歩道のベンチには井戸端会議の生活臭がいまも残っている。豊州の雑貨屋は既に営業停止で自動販売機だけだが、古びた建物と看板だけはそこに何があったのかを示し、銭湯もまた駅前の一角にデンと居座っている。月島や谷中のような下町街の代表格や大正アールデコ建築物などに比すれば、まさになんでもないのであるが、そのなんでもないさが、誠にたまらないのである。戦



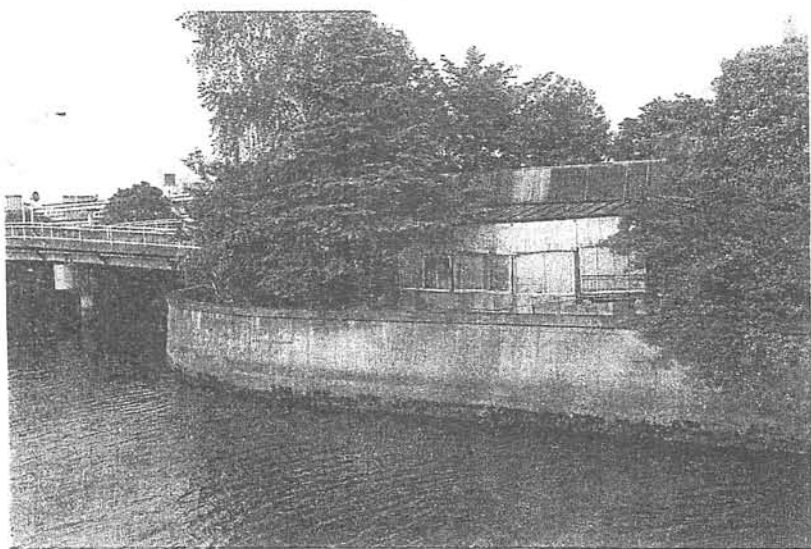


後バラックのあけすけさは、高度経済成長期の機能美につながって一体感、連続性がどことなくあるが、これがバブル期の「ピカピカ見てくれ建物」ともなると、明らかに都市の形が断絶されている。その断絶される前の今は懐かしき景色は庶民生活が醸し出す安心感の人々に与える。なんでもない事は実は素晴らしい事である。



運河の街というのは水難の街という事でもある。どこでもそうだが、川辺や低地には貧乏人が住み、高台には金持ちが住む。水難という言葉が河川工事技術の発達であまり聞かれなくなっただけは、ウォーターフロントだか何だか知らぬが河川、運河、沿岸にも大きな高級マンションが建ち並び、貧乏人が住む専売特許の場所も金持ちに追い立てられている。もちろんそれに頑強に抵抗し続けている家々もある。枝川から塩浜、古石場から木場にかけての運河沿いにはそんな頼もしい家々が今も存在している。もちろん、当の家主達は抵抗しているつもりはなく、建て替えるにも金がなく、そうこうしている内に時間が経ち、回りが勝手に変わっていったにすぎないのだから、客観的に見ればこの貧弱な家々が巨大な都市開発という化け物に抵抗しているように見えるのがおかしいところ。そもそも、本当の抵抗なんて言うのは元来そんなものなのかも知れない。時風に流されず、ごくごく自然に当たり前に、かつ正直に過ごしているとそれが異端視される時代なれば抵

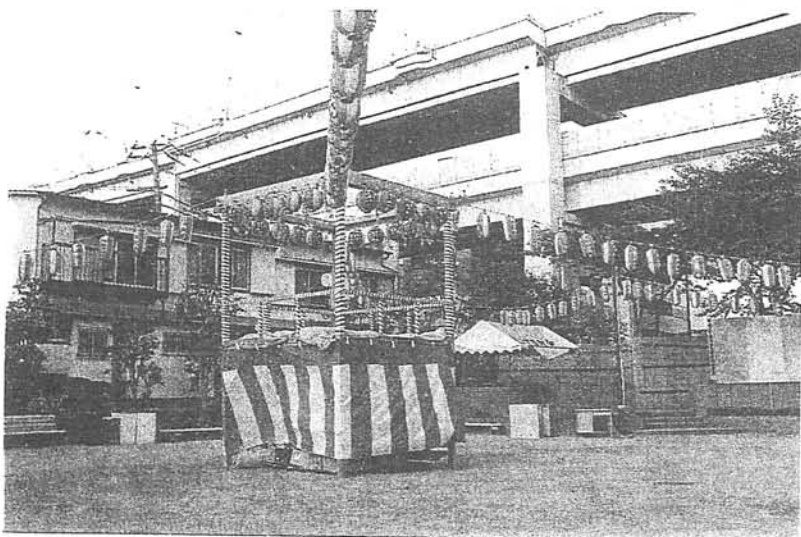




抗は自然に躍起する。貧困が時代遅れや罪悪視され、そこに生きていく人々も正当には評価されずに排除や隠蔽の対象とされる。僕らが感じるのはそんな醜い都市の底深い恐ろしさである。橋をいくつも渡り、木場の駅まで来ると、その小さな公園には夏まつりの準備がされていた。本当に小さな街のまつり。おそらく、そこには、ビールと盆踊りしかないことだろう。もちろん、それはそれで良い。そんな、どこかの町内会でもやっている小さなまつりがまつりの原形である。なんでもなさの中のほのぼのとした夏の憩いの場。

木場から深川に向かって歩くと、野宿のおっちゃんの姿もちらりほらりと見え始める。とぼとぼと三ッ目通りを北上するおっちゃんは、果たしてどこまで行っただろうか？ 深川公園で休むおっちゃんらは今頃どんな夢を見ているのだろうか？

庶民という概念の中に、貧者が正しくそしてなんとなく含まれる日を望みながら、夏の日のぶらぶら班は夕暮れの門前仲長の居酒屋でビールを飲み干す。



# かんじんさん になろう

高木 護 著  
(五月書房)

「かんじん」とは乞食の呼び方の一つ。著者が育った村では、尊敬の念を込めて呼び捨てではなく『さん』をつけて「かんじんさん」と呼んでいた。著者は「『かんじんさんさん』になりたかった」という。

「熊本県で生まれる。定職なしのまま、爺さんになってしまった」というのが著者の略歴。「わたしもぶらぶらぐらしをつづけ、いまははらはらしながらも、その日ぐらしをたのしんでいるが、ほんとの人間とはどんな人だろう

うと、これまで出会った方たちからえらぶとしたら、かんじんさんということになる」と、話す。そんな著者の体験を基に、本書は書かれている。

ニセの坊主も立派な商売だった時代。「かんじんさん」にはよほどの度胸がなくてはなれなかったが、ニセの坊主は誰でもなれた。そのニセ坊主と著者との問答がおもしろい。

「人間になるいろはって、どきやんこつでっしゅうか」

「あんな、人間にとって、何よりも

大事なものは、いのちを守るための衣食住でござる。着る、食う、住むの意味をまなび、おのれ一人なら一人分ですしと知るのも、人間になるいろはの一つでござる」

「そぎやんとが、りっぱな人間になるこつのは、いろはの一つでも、なんか着ろうとしても着られんときや、なんか食おうとしても食われんときや、どこかに住もうとしても住まれんときや、どきやんとするとよかつでっしゅうか」

「ならば、あつさり降参しなはれ」

「降参ばかい」

「さよう。あつさりあきらめなはれ」

「あきらむると、よかつじやろうか」

「死になはれ！」

野たれ死にを肯定している。最後に、ニセ坊主は「人間として野たれ死にを心がけるのが、これも人間のいろはの一つでござる」と、説く。人間も大自然に生かしてもらっている。ぶら



ぶら暮らしの著者に、ニセ坊主は言う。

「さようござる、おぬしのごたるもんでも、大自然の肥やしくらいにはなるでござる」

人間になるいろはを学ぶことが、「かんじんさん」になる道なのだろうか。著者が子供のころ聞いた「かんじんさん」への道を、本書で紹介している。

「あのない、かんじんさんにはな、だれでんはなれんとじゃ。あん人たちはな、かんじんさんにならずごつえらばれた人たちじゃ」

「どぎゃんしてかいだ」

「そうじゃな、運が悪かったり、からだや頭が弱かったり、うまれてこらしてときからどこかようなかったり、人がよ過ぎてだまされたり、おまんまになる仕事ばしきらっさんじゃったり、世間とのまじわりがきらっさんじゃったり、ものばいいきらっさんじゃったりして、さんざん苦労はする

ごつうまれてこらしたつじゃ」

今では、「ダメな人間」と言われてしまふ人たちのことだろう。それでも当時は、乞食を意味する「かんじん」に『さん』が付いた。そういう社会だったのだろうか。

「夕方になると、乞食が家にやってきてな。お母さんがおにぎりを用意して、渡していたわ」母親が小さかったころの話だ。ふと、思い出した。

現在、「かんじんさん」という言葉は、あまり聞かなくなった。代わりに、路上などで生活する人たちと関わりを持つとする人たちは、「先輩」と彼らのことを呼ぶ。

「自分よりも、さまざまな苦労をしてきた人生の先輩」という意味だ。

現代の「かんじんさん」とは、路上生活者のことを言うのだろうか。野たれ死にもする。

仮にそうだとしても、アスファルトで固めた路上で死んでも肥やしにはならない。

すべてを囲ってしまふ。器用になった。全体がそれを求めている。不器用な「かんじんさん」たちの居場所はない。「かんじんさんになろう」としても、許されない時代になった。本書はそんな疑問を投げかけている。

〈殿村よしお〉



## 映画案内

# 「マイ・ネーム・イズ・ジョー」

1998年  
イギリス映画  
監督ケン・ローチ

恩田 美代子

ジョー・カバナー 37歳。元アルコール依存症で現在断酒会には入り、生活保護を受けている男性が主人公。彼が甥リーアムの家で健康管理センターの職員セーラと出逢い、二人の恋愛を軸に物語は展開していく。ジョーは言う。「彼女はなんでも持ってる。車、家、仕事、俺にはなんにもない。ただのジョー・カバナーだ」「俺の住んでいる所はスラムだ。ここでは生活を選べないのさ」

最初は失業者ジョーと付き合うことに不安を感じるセーラ。しかし昔、付き合いっていた女性に酒の酔いにまかせ暴力をふるう自分に嫌気がさして酒を断ったと告白し、金のために盗んだカセットを売りさばき、その時余ったベートーベンのカセットに心をいやされていると話すジョーの姿に次第に惹かれていく。

でっこのままハッピーエンドになる・・・わけなく、甥リーアム一家のトラブルに巻き込まれ、裏街のボスの誘いに乗り悪に手を染め、セーラから別れを言い渡されてしまい、そして・・・。

イギリス映画らしいスピード感とクールな音楽にぐいぐい観客はひきよせられ、ラスト、映画館中、水を打ったような静けさに。

監督はインタビューで、何故労働者階級の厳しい生活を描くのかという質問にこう答えている。「彼らが抱える問題を映画の中で描いて、それによって社会が変わって行けばいいと思うが、ただ単純に労働者がたくましく生きる姿は、それだけで人を笑わせ、泣かせ、時々色々なことを考えさせてくれる。皮肉やエネルギーに満ち溢れた労働者階級のスピリットを作品に盛り込んでいるつもりだ。

さてさて、私がジョー（ジェリー・藤尾に似ている！）に共感を覚えたのは、単に彼と同年齢だからという理由だけではなく、人間の情けないくらいの弱さ、だからこそ人を求めずにはいられない、そんな行き様がストレートに伝わってくるから。そう、世の中、強い人間なんていやしないのだ。

# はり師いが丸の

## 肝腎かなめ

はり師  
いが丸

整形外科を訪れる患者の疾患の第一位は腰痛と言われている。腰痛といって思い浮かぶのは、ぎっくり腰、椎間板ヘルニアなどでしょうか。病院に行くほどじゃないけど、慢性的にずっと腰が痛いという方も少なくないと思います。

「ぎっくり腰」とはよく聞く言葉ですが、これは急性腰痛全般のことをいいます。痛みの原因が筋肉に由来するもの、背骨に由来するものもすべて、突然なったものはぎっくり腰です。だからもし、病院に行って「あなたはぎっくり腰ですよ」なんて言って湿布だけ渡すような医者がいたら、気をつけよう。あなたはぎっくり腰で困っているから病院に来たのだから。痛みの原因がどこにあって、どんなことに注意して生活すればいいのか、どれくらいで治りそうか、ちゃんと教えてもらいましょう。

腰痛は、経験したことのない人のほうが少ないのではないのでしょうか。予防策としては、月並みですが、まず重い物を持ち上げる時は注意しましょう。中腰の姿勢で腕の力だけで持ち上げようとする、あまりにも腰に負担がかかり、たいへん危険です。必ず膝をつきましょう。

それと、和式便座に坐るような姿勢（うんこ坐りって言うんですか？）で長時間いるのも腰に負担がかかります。よくこの姿勢でタバコを吸ったりしてる方、気をつけてくださいね。

尚、今腰が辛くて困っている方については、理屈だけ言ってもしょうがないので、まずは中央公園の医療相談までお越しください。鍼治療も承ります。



R

o

j

u

k

u

**あなたを** 広告いたします。当雑誌では広告を募集中。半ページ5000円、1ページ1万円（値下げ交渉可）。ライバル雑誌から、サークル案内、新製品、発明品、新装開店目玉セールから恋人募集、さてはあなた自身の広告まで、何でもござれ。え？ こんな雑誌じゃしょうがない？ いやいやいや、何と言っても当雑誌は購読者1万人（希望推測）のトレンド雑誌。ぜひぜひ、下記までご連絡を！

**おたより** を大募集中です。「露宿」に対するご意見、ご要望、大歓迎です。現在3人の人間で編集をしています。至らぬ事やお見苦しい点もあることと思います。開かれた雑誌として、様々の視点を受け入れ、発展していきたいと考えています。何か気がつかれた事、ご批判など教えて頂ければ、うれしいです。よろしくお願い致します。

**投稿** も大募集中です。下記の住所への郵送、編集者への手渡しのほか、「**露宿ペン倶楽部専用ファックス**」を開設致しました。「露宿」など通信物の注文・原稿送付・広告申込・ご意見・ご質問・近況報告など何でもご利用下さい。親切丁寧、連日24時間受付中！

FAX 03-3378-8761

この雑誌は、路上生活者の方達が読み、書き、表現をする場を提供しています。一人でも多くの路上生活者の方に手渡したい為、発行部数が増えれば増える程、赤字になるという宿命です。繰り返して、心苦しい限りですが、多くの方のご理解とご支援をお願い致します。皆さんのお気持ちに届く、熱く丁寧な雑誌づくりを目指します。

◆定期購読一年間5000円で大募集中◆

◆購読費・カンパ送り先◆

郵便振替口座：

00170-1-723682

「新宿連絡会」

## 編集後記

広告紙の裏などにびっしりと書き込まれた、投稿の数々。パソコンに打ち込みながら、ふと気がつくと、文字を打つ手が止まっている。「黙示」「たそがれの慕情」ただただ圧巻。作り手の思惑など、簡単に飛びこえ、揺るがす。

編集：露宿ペン倶楽部

発行：新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議（新宿連絡会）

連絡先：☎111 東京都台東区日本堤  
1-25-11 山谷労働者福祉会館気付

：☎ 090-3818-3450

：FAX 03-3378-8761

メール：inaba@jca.apc.org